

2022年5月14日（土）10：00～11：30、幹事・児島力さんのご紹介により、本会会員で英系投資ファンドのCVCに勤務されている川口幸一氏をお招きしてオンライン報告会を開催しました。事前登録された会員14名が参加されました。お話の題目は「プライベートエクイティの現場からみた日本企業の課題と解決策」です。

川口さんは、1989年に神戸商科大学ご卒業後、野村総合研究所入社した後、UCLAにてMBAを取得され、1997年から5年間IFCの中近東局とインフラ局に勤務されました。その後、KPMG、アドバンテッジパートナーズ（国内系投資ファンド）、AlixPartners（再生系コンサル会社）と務めた後、2021年からCVCに転職し、日本の大企業（製造業中心）によるカーブアウト案件を中心に案件開拓を担当されています。川口さんは、投資ファンドという「器」を活用することで、日本企業とその経営者・従業員の方々が持っているフルポテンシャル（潜在的な能力）を開花させたい、という考えをお持ちです。今回のオンライン報告では、プライベートエクイティの現場から、アクティビスト投資家との違い、コーポレートガバナンス、ESG、企業価値向上の手法等、幅広いテーマでお話をいただきました。

参加会員の皆様のうち複数名（前田さん、小林さん、児島さん、浦田さん、大久保さん、水野さん他）の方々からご質問を頂きました。①日本におけるファンドの競争とディールソーシングの課題、②中堅企業の事業承継に果たすPEの役割、③就職先・キャリアとしてのPE業界、④PEから見た対内直接投資の障壁の有無について、⑤PEファンドの人材の経営者としての資質について、⑥ファンドに買収された企業の職員が心理、⑦外からの経営が買収された企業側の役職員の期待に応えられているのか、⑧PEファンド投資と投資期限との関係Gなどについてご質問を頂きました。

ご報告頂きました川口さんには心より感謝しております。ありがとうございました。なお、今回の資料は、その内容に鑑み、HP掲載は行いません。

（記録：安間）